

地域連携センター一年報

第7号（平成25年度）



愛知県立大学

AICHI PREFECTURAL UNIVERSITY

地（知）の拠点としての大学とは

地域連携センター長 戸田尚宏

地域連携センターは平成19年度の発足以来、7年を迎えた。本年度、大学全体としては、学内組織の見直しから、センターの大規模な改変が行われた。地域連携センターに関しては、これまでその中に位置付けられていた看護実践センターが、重要性・独立性の観点から、別組織ということになった。しかし、これまでの継続性から、看護実践センター長は地域連携センター会議の委員として参加しており、連携はこれまでと変わらない。

今年度特筆すべき事項としては、一昨年来の学生の自主的な活動である震災ボランティアに参加した学生の熱意によって、「ボランティア・ステーション」が新食堂2階の一角にオープンしたことが挙げられる。これに関しては、昨年と同様、別冊子で報告書が作成されているので、そちらを参照いただきたい。また、愛・地球博記念公園との包括協定に関しても議論が進み、本報告書が印刷される頃には締結されている予定である。来年度には、愛知県主導の「ESD世界会議」、再来年度には、「都市緑化フェア」などが開催される事を考えると、多くの成果が期待される場所である。

また、文字文化財研究所による名古屋市博物館と名古屋市立大学との連携企画である「文字のチカラ展」は1万人を超える入場者を数えた。それに先立ち、名古屋市立大学との連携事業として、「文字のチカラ展を楽しむために一名名古屋市立大学の実践に学ぶ」は本学で開催され、学生や一般への啓発を行った。例年行っている公開講座に関しては、本年度は外国語学部の先生方によるお骨折りで、「ヨーロッパと日本の経験から考える多文化共生」に関する学術講演会に続いて6回開催され、延べ360名の一般参加となり盛会となった。さらに、県大アゲインは教育福祉学部の退職教員を中心に開催され、これも、多数の参加があり同窓会からも多くの支援を頂いた。また知の探究講座は教育福祉学部の先生方の努力により、好評を頂いている。また、愛知県との連携による「あいち地域づくり連携大学」をはじめ、地域連携事業として多くのセミナーなどが開催され、企画ならびに実施の労を頂いた先生方、事務の方々には、ここに深く感謝する次第である。

さて、昨年度、「見える地域連携」を目指す旨、年報の巻頭言で書いた。学内の活動を地域に発信するための仕組みを作る、という意味である。上に挙げたような一般の人の参加できる事業ではない学内での活動のうち、特に基礎的な研究にあっては「将来的には利用できる情報が含まれている」とは言えるものの、現時点で即時利用可能なものはどれかに応えるのは困難である。だから広く一般に開示していかななくてはならない。しかし、見る側からすると、ただ開示されても分からないし、分からないから、やがて見なくなってしまう。これでは「見える」という条件を満たさない。見えてないのと同じである。

そこで必要になってくるのは、より地域に深く入り込んで問題を咀嚼し、必要な専門分

野を選定し、橋渡しをしていくことである。

しかし、私自身、「見える化」を叫ぶ事はできても、何を見せるか、何のために見せるか、という最も重要な「内容」のイメージが未だに明確ではない。自分の専門領域のことを考えれば、どれほど大変かは推察できる。応用を念頭に置いた現実の問題を考える場合、その問題の本質に行き当たるまでが極めて困難である。対症療法的、発見的な方法により、ある程度対処できたとしても、問題を捉え切れていなければ、何故その方法で良いのか説明も出来ないの他の問題に応用できないばかりか、旨く機能しなくなった場合に対処できない。本質を掴んだと認識できるまでは、全く安心できない。従って一分一秒も無駄にしたくない。必死になっているので他の事が見えなくなる。多くの教員が、こんな状況で研究に打ち込んでいるのだと思う。そうした中でたまに旨く応用可能なものが見つかる。それが学術なのだと思う。しかし、それではダメだというのが大学というものへの風当たりなのだそう。その必死さが外からでは分からないということだ。

こう考えると、「見える化」を徹底しようとする学内の研究・教育と社会との橋渡しに専念する専門家が必要となる。極めて広範な知識と経験と勤が必要な専門家である。各大学は教職員の何割かをこれに当てる覚悟をし、それに向けた大学改革を行え、というのが文科省の意向でもあると考えられる。「地（知）の拠点整備事業（COC：Center of Community）」はそうした意向を包含する事業として、募集が行われた、と認識している。

本年度の地域連携センターの最も大きな取り組みが、この事業への応募であった。学内外に対する「見える化」の象徴的な取り組みであろうと考えられた。全学説明会まで行って応募に漕ぎ着けた。しかしながら、「内容が研究に偏っており、教育に関する企画、及び新しい事業が少ない」という理由で不採択であった。その理由がどのように導かれたのか当初は理解できなかったが、1月に開催された来年度の事業説明会において、「地域に関する科目を必修化」することが条件として新たに加えられた点から考えると、それは確かに満たしていなかったからだと言える。しかし、「大学と地域の橋渡し」という目的に対して「科目の必修化」という方策は離れ過ぎていると考えられるため、ポイントとして浮上し得なかったというのが正直な感想である。公立大学の採択率は16%であったそう。

「地域科目の必修化」は条件になったので、来年度応募する大学はそれを満たして来る。しかし、大多数を不採択にする必要があるため、新たな基準が審査の過程で設定されるものと考えられる。現時点ではそれを予想することは極めて困難であるばかりか、科目の必修化に伴う調整事項のことを思うと、相当の困難が予想される。

来年度はこの事業の予算も削減されて採択数は本年度の半分となるため、さらに厳しい状況となると言われている。しかしながら、この事業に来年度も応募することが、地（知）の拠点としての大学というものを再考する契機となることを願う。

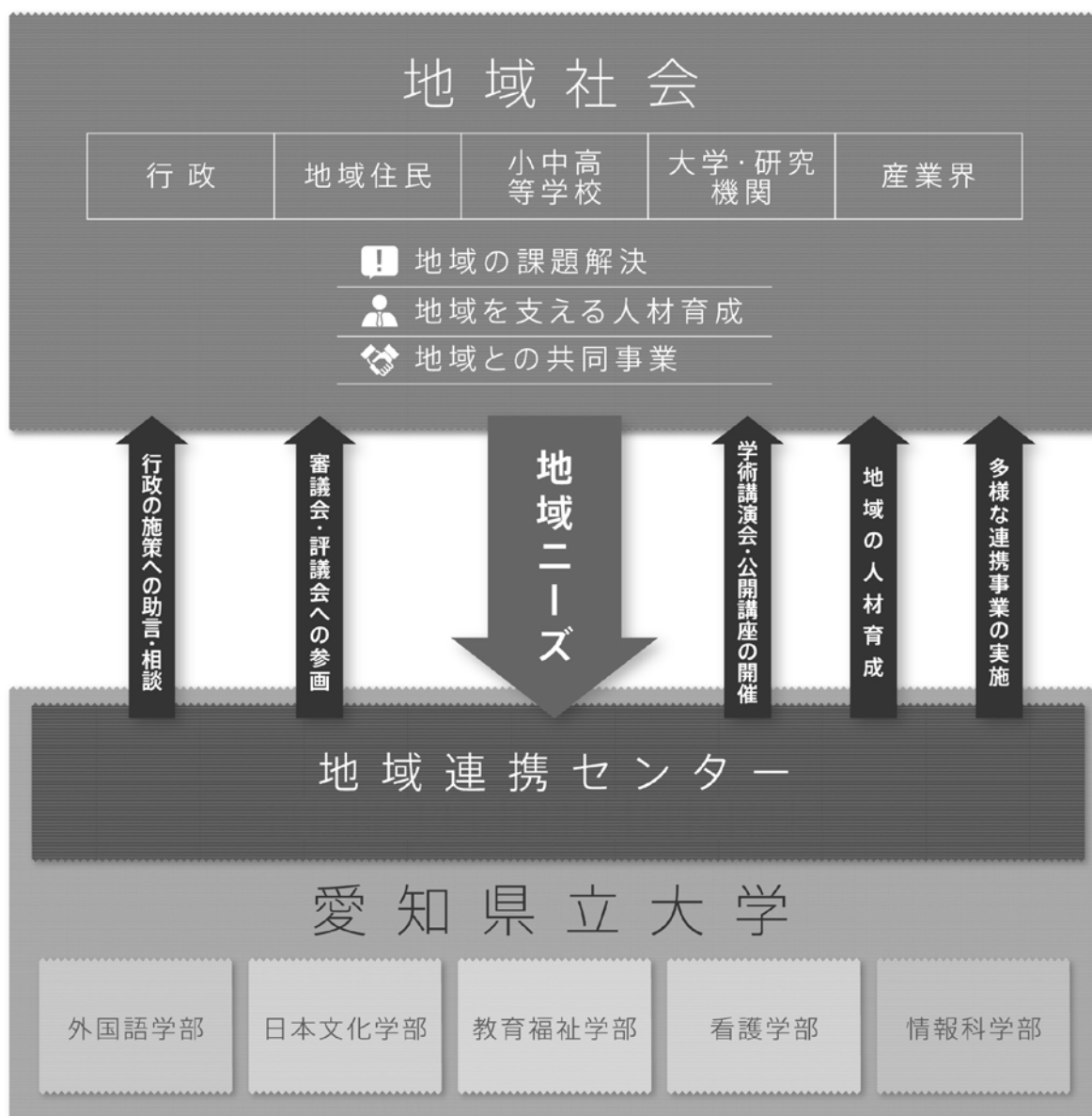
報告書目次

1	組織と運営	1
2	地域連携センター・産学連携推進室・ 公開講座企画運営委員会	2
3	地域連携センター活動状況	9
4	活動実績	
	【地域の課題解決を目指す】	
(1)	自治体への委員推薦及び講師派遣等に関する コーディネート実績	12
(2)	学生のボランティア活動への支援	15
	【地域を支える人材の育成】	
(1)	学術講演会	22
(2)	公開講座	23
(3)	OB教員による講座「県大アゲイン」	26
(4)	「愛知・長久手学」バスツアー	28
(5)	地域連携事業	29
(6)	高大連携事業	55
(7)	あいち地域づくり連携大学	61
(8)	愛知県地域づくり活動フォーラム	62
	【地域の多様な団体との連携】	
(1)	日進市とのスクールソーシャルワーカー派遣に関する 協定締結	63
(2)	長久手市大学連携推進協議会への参加	64
(3)	日中大学フェア&フォーラムへの参加	65
(4)	産業界との連携事業	66
5	参考資料	81

1. 組織と運営

地域連携センター紹介

○地域連携活動を推進する愛知県立大学の総合的な窓口として次のような業務を行っています。



2. 地域連携センター規程・産学連携推進室要綱・公開講座企画運営委員会規程

愛知県立大学地域連携センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、愛知県立大学学則第6条の規定に基づき設置される地域連携センター(以下「センター」という。)の運営に関する基本的事項について定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、地域連携活動を円滑かつ組織的に推進することを目的とする。

(組織)

第3条 センターの下に産学連携推進室を置く。

(業務)

第4条 センターは、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 行政との連携に関すること。
- (2) 他大学・研究機関等との連携に関すること。
- (3) 産業界との連携に関すること。
- (4) 小・中・高等学校との連携に関すること。
- (5) NPO等各種団体との連携に関すること。
- (6) 学術講演会、公開講座の企画・立案・実施に関すること。
- (7) 学術文化交流センターの管理・運営に関すること。
- (8) その他センター長が適当と認めた業務

(センター長)

第5条 センターに、センター長を置く。

2 センター長は、学長の命を受け、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とする。ただし、任期の途中でセンター長が交替した場合は、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 センター長に事故がある場合は、センター長が予め指名したセンター長補佐がセンター長の職務を代理する。

(センター長補佐)

第6条 センターに、センター長補佐を置くことができる。

2 学長は、センターの運営に必要と判断した場合、センター長と協議の上、センター長補佐を指名することができる。

3 センター長補佐は、センター長の命を受け、センター長の職務を補佐する。

4 センター長補佐の任期は、2年とする。ただし、任期の途中でセンター長補佐が交替した場合は、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営会議)

第7条 センターの業務を円滑に運営するため、センター運営会議を置く。

2 センター運営会議は次の者をもって組織し、議長はセンター長をもって充てる。

(1) センター長

(2) 看護実践センター長

- (3) センター長補佐
- (4) 産学連携推進室長
- (5) 学術情報部長
- (6) その他センター長が必要と認めた者

3 運営会議はセンター長が召集する。

(委員会)

第8条 第4条第6号の業務に係る重要な事項について審議するため、公開講座企画運営委員会を置く。

2 前項の委員会に関して必要な事項は、別に定める。

(産学連携推進室)

第9条 産学連携推進室(以下「推進室」という。)は、第4条第3号の規定による業務を推進する。

2 前項の推進室に関して必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第10条 センターの庶務は、研究支援・地域連携課で行う。

(補則)

第11条 この規程に定めるセンターの運営に関し必要な事項は、学長が定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

地域連携センター運営会議名簿

所 属	平成25年度運営会議氏名
議長（地域連携センター長）	戸 田 尚 宏
看護実践センター長	小 松 万喜子
地域連携センター長補佐	原 潮 巳
地域連携センター長補佐	上 川 通 夫
地域連携センター長補佐	松 宮 朝
産学連携推進室長	小 栗 宏 次
学術情報部長	秋 田 敏

地域連携センター庶務

所 属	氏 名
研究支援・地域連携課主事	三 宅 貴 子
研究支援・地域連携課主事	大 田 なぎ砂
研究支援・地域連携課	山 崎 智 夫

愛知県立大学産学連携推進室要綱

(趣旨)

第1 この要綱は、愛知県立大学地域連携センター規程第3条に基づき、地域連携センター（以下「センター」という。）に設置する産学連携推進室（以下「推進室」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2 推進室は、産学連携活動を円滑かつ組織的に推進することを目的とする。

(業務)

第3 推進室は、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 産学連携を推進する事業の企画・実施及び広報
- (2) 共同研究等の窓口業務
- (3) 知的財産に関する支援業務
- (4) その他室長が必要と認める業務

(組織)

第4 推進室は、次の者をもって組織する。

- (1) 室長
- (2) 地域連携センター長
- (3) 地域連携センター長補佐
- (4) 情報科学部選出教員
- (5) 室長が指名する事務職員
- (6) その他室長が必要と認めた者

2 室長は、地域連携センター長が前項第2号から第4号に掲げる者の中から指名する。

(顧問)

第5 推進室に、顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、産学連携に高い見識を有する学外者の中から地域連携センター長が委嘱する。
- 3 顧問は、推進室の活動に対して助言を行うとともに、学外の機関等との渉外にあたる。
- 4 顧問の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(庶務)

第6 推進室の庶務は、庶務課の協力を得て研究支援・地域連携課が担当する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

産学連携推進室運営会議名簿

所 属	平成25年度運営会議氏名
室長（情報科学部選出）	小 栗 宏 次
地域連携センター長	戸 田 尚 宏
地域連携センター長補佐	原 潮 巳
地域連携センター長補佐	上 川 通 夫
地域連携センター長補佐	松 宮 朝
看護実践センター長	小 松 万喜子
事務職員（学術情報部長）	秋 田 敏
事務職員（研究支援・地域連携課主事）	三 宅 貴 子
事務職員（研究支援・地域連携課主事）	大 田 なぎ砂
事務職員（研究支援・地域連携課）	山 崎 智 夫

愛知県立大学公開講座企画運営委員会規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、地域連携センター（以下「センター」という。）に設置する公開講座企画運営委員会（以下「委員会」という。）について、地域連携センター規程第9条第2項の規定に基づき、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 公開講座の企画・立案・実施に関すること
- (2) 学術講演会の企画・立案・実施に関すること
- (3) その他公開講座及び学術講演会に関すること

(組 織)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 地域連携センター長
 - (2) 地域連携センター長補佐
 - (3) 各学部及び各大学院研究科から選出された者（学部・研究科の双方を兼ねる。） 各1名
 - (4) 地域連携センター長が指名する事務職員
- 2 委員会に、委員長を置き、地域連携センター長をもって充てる。
 - 3 委員の任期は、1年とする。

(会議及び運営)

第4条 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

- 2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代理する。
- 3 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 会議の議事は、出席者の過半数の同意をもって決することとし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を認めることができる。

(庶 務)

第6条 委員会の庶務は、研究支援・地域連携課が担当する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

公開講座企画運営委員会委員名簿

所 属	平成25年度委員氏名
委員長（地域連携センター長）	戸 田 尚 宏
地域連携センター長補佐	原 潮 巳
地域連携センター長補佐	上 川 通 夫
地域連携センター長補佐 （兼教育福祉学部選出委員）	松 宮 朝
外国語学部選出	竹 中 克 行
日本文化学部選出	與那覇 潤
看護学部選出	古 田 加代子
情報科学部選出	金 森 康 和
学術情報部長	秋 田 敏
事務職員	三 宅 貴 子
事務職員	大 田 なぎ砂
事務職員	山 崎 智 夫

3.地域連携センター活動状況

日時		運営会議・委員会等	行事・活動
4月	17日	第1回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
5月	8日	第2回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	10日	第1回公開講座企画運営委員会	
	19日		大学生による起業・市の活性化に関する実施事業企画提案発表会
	22日		ボランティア・ステーション開所式
6月	5日		長久手商工会・瀬戸商工会議所パソコン講習会
	13日	第3回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	21日	長久手市大学連携推進協議会	
	26日		高大連携事業「愛知県高等学校工業教育研究会電気部会第1回研究会」
	30日		OB教員による講座「県大アゲイン」(第1回)
7月	3日		地域連携事業「人類学映画の語り口」ーアフリカを対象とした作品を事例に」
	4日 ～8月1日		地域連携事業「はじめてのインドネシア語講座」
	10日	第4回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	13日 ～14日		モリコロパーク夏まつり ロボット展示
	14日		OB教員による講座「県大アゲイン」(第2回)
	28日		OB教員による講座「県大アゲイン」(第3回)
8月	2日		名古屋市立大学との情報交換会
	4日		OB教員による講座「県大アゲイン」(第4回)
	5日 ～9日		「知の探究講座」(前期)
	7日		地域連携事業「インドネシア現地経済事情講習会」
9月	11日	第5回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	20日		地域連携事業「四季・海上の森写真展」
	21日 ～22日		地域連携事業「モリコロパーク秋まつり ロボット展示」
	29日		地域連携事業「2013 International Workshop on Smart Info-Media Systems in Asia (SISA2013)」

日時	運営会議・委員会等	行事・活動	
10月	9日	第6回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	16日 ～17日	フロンティア21エレクトロニクスショー出展	
	21日	地域連携事業「JICAボランティアセミナー」	
	26日	「知の探究講座」(後期)	
	27日	地域連携事業「ワールド・コロポ・フェスタ2013への国際関係学科出展」	
	28日	宮島喬氏学術講演会	
	29日	第2回公開講座企画運営委員会	地域連携事業「グレゴリオ・デ・セスペデスと文禄の役」
	30日		「あいち地域づくり連携大学」(第1回)
11月	2日		公開講座(第1回)、「知の探究講座」(後期)
	6日		地域連携事業「「文字のチカラ」展を楽しむために一名古屋市立大学の実践に学ぶ」
	6日 ～7日		フロンティア21エレクトロニクスショー2013出展
	13日	第7回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	9日		公開講座(第2回)、「知の探究講座」(後期)
	11日 ～12月16日		地域連携事業「キャリア・ジャパニーズ講座」
	13日		「あいち地域づくり連携大学」(第2回)
	14日		地域連携事業「日本文学をスペイン語に訳すときの問題点ー人称、数、性、話し手などー」
	23日		公開講座(第3回)
	27日		「あいち地域づくり連携大学」(第3回)、 地域連携事業「第4回愛知県立大学所蔵貴重書展示・講演会尾張・三河の俳人たち～その文芸力とネットワーク～」
	28日		ヴィチエンツァ県商工会議所視察団受入
30日		公開講座(第4回)	
12月	11日	第8回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	ボランティア報告会
	11～15日		あいちITSワールド2013への出展
	14日		公開講座(第5回)、地域連携事業「古典文学の多地的地平-翻訳文学と歴史学との結節点を求めて-」
	16日		地域連携事業「みんなちがってみんないい」
	18日		「あいち地域づくり連携大学」(第4回)
	21日		公開講座(第6回)

日時		運営会議・委員会等	行事・活動
1月	11日		「知の探究講座」全体発表会、 NEXT COMMUNICATION AWARD 2013
	14日		地域連携事業「講演会「メキシコ人類学・考古学の最新事情」#1 マヤの十字架:3千年続くメソアメリカ四分割の図像」
	15日	第9回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	18日		地域連携事業「講演会「メキシコ人類学・考古学の最新事情」#2 古代都市テオティワカンと王墓最新発掘レポート」
	19日		地域連携事業「総合発表会「古代文字世界への招待」」
	21日		地域連携事業「講演会「メキシコ人類学・考古学の最新事情」#3 古代都市テオティワカンと王墓最新発掘レポート」
	24日		高大連携事業「愛知工業高校 課題研究発表会」
2月	6日		地域連携事業「NEXT30産学フォーラム」
	7日		愛知県地域づくり活動フォーラム
	8日		地域連携事業「東京外国語大学長 立石博高先生講演 宮廷画家ベラスケス ース페인帝国と王権の表徴をめぐって」
	14日	第10回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	16日 ～17日		地域連携事業「保育・幼児教育セミナー」
3月	4日 ～10日		瀬戸商工会議所パソコン講習会
	11日	第11回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	19日	第3回公開講座企画運営委員会	

4. 活動実績

【地域の課題解決を目指す】

(1) 自治体への委員推薦および講師派遣等に関するコーディネート実績

《自治体への派遣》

○長久手市

- ・長久手市くらし文化部生涯学習課からの依頼により、「愛知県立大学連携講座（公民館講座）」へ講師の派遣を行った。

岡本和士教授（看護学部看護学科）

「健康の維持は、げんきなところから ～心のメンテナンスは欠かさずに～」

（25年11月16日、23日）

- ・長久手市福祉部福祉課からの依頼により、「長久手市障害者福祉計画」の策定のための助言者を公募し、1名を推薦した。

吉川雅博教授（教育福祉学部社会福祉学科）

○春日井市

春日井市生涯学習課からの依頼により、「かすがい熟年大学」へ講師の派遣を行った。

山村亜希准教授（日本文化学部歴史文化学科）

「地図から読む歴史」（7月31日、8月7日）

大塚英二教授（日本文化学部歴史文化学科）

「尾張藩主光友夫人～千代姫と公儀付人について」（8月28日）

○小牧市

小牧市まなび創造館からの依頼により、講師派遣のコーディネートを行った。講座は来年度に同館にて実施予定。

阿南東也准教授（外国語学部英米学科）

○知立市

知立市市民部経済課からの依頼により、「知立市中小企業振興会議」への委員を公募し、1名を推薦した。

草野昭一教授（外国語学部国際関係学科）

（任期：平成25年4月～平成27年3月）

《カルチャーセンターへの派遣》

○朝日カルチャーセンター

愛知県立大学では、大学での教育研究の成果を県民や社会に対して還元するとともに、高度な要望や知的欲求など県民の多様なニーズに対応するため、朝日カルチャーセンターと提携講座を開催している。

〈平成 25 年度提携講座〉

4 月～6 月

林良児教授 (外国語学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)	「ヨーロッパ美の歴史②」
伊藤伸江教授 (日本文化学部国語国文学科)	「兼好法師のつれづれなる生活—中世文学の世界」
同上	「兼好法師～もうひとつの素顔」
久富木原玲教授 (日本文化学部国語国文学科)	「源氏物語の謎」
伊里松俊名誉教授	「アイルランド短編小説の魅力」
日置雅子名誉教授	「ドイツとヨーロッパの歴史①」
大脇由紀子非常勤講師	『古事記』入門」
山井徳行非常勤講師	「原書（仏語）で読む「アラン幸福論」

7 月～9 月

林良児教授 (外国語学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)	「ヨーロッパ美の歴史—ルネサンス以降の絵画を中心に」
伊藤伸江教授 (日本文化学部国語国文学科)	「兼好法師のつれづれなる生活—中世文学の世界」
久富木原玲教授 (日本文化学部国語国文学科)	「源氏物語の謎」
伊里松俊名誉教授	「アイルランド短編小説の魅力」
山井徳行非常勤講師	「原書（仏語）で読む「アラン幸福論」 —珠玉のエッセイに学ぶ」
大脇由紀子非常勤講師	『古事記』入門」

10 月～12 月

林良児教授 (外国語学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)	「ヨーロッパ美の歴史—ロココと新古典主義」
伊藤伸江教授 (日本文化学部国語国文学科)	「兼好法師のつれづれなる生活—中世文学の世界」
久富木原玲教授 (日本文化学部国語国文学科)	「源氏物語の謎」
伊里松俊名誉教授	「アイルランド短編小説の魅力」
日置雅子名誉教授	「ドイツとヨーロッパの歴史②」
大脇由紀子非常勤講師	『古事記』入門」
山井徳行非常勤講師	「原書で読む名著～カミュ『異邦人』を読む」

2014 年 1 月～3 月

伊藤伸江教授 (日本文化学部国語国文学科)	「兼好法師のつれづれなる生活—中世文学の世界」
久富木原玲教授 (日本文化学部国語国文学科)	「源氏物語の謎」
與那覇潤准教授 (日本文化学部歴史文化学科)	「いま、一番新しい日本史—若手研究者と学びなおす」
伊里松俊名誉教授	「アイルランド短編小説の魅力」
大脇由紀子非常勤講師	『古事記』入門」
山井徳行非常勤講師	「原書で読む名著～カミュ『異邦人』を読む」

○その他地域連携コーディネート及び連携事業

- ・ あいち海上の森センター（人と自然の共生国際フォーラム実行委員就任）
- ・ 愛知県教育委員会（高大連携事業）
- ・ 愛知県生涯学習推進センター（講師名簿の作成協力）
- ・ 愛知県選挙管理委員会（連携事業検討）
- ・ 愛知県地域政策課地域整備グループ（リニモ沿線地域づくり会議委員就任）
- ・ 愛知県陶磁美術館（パートナーシップ事業）
- ・ ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会（パートナーシップ事業実施）
- ・ 科学技術交流財団（知の拠点への事業協力）
- ・ 科学技術振興機構（日中大学フェア&フォーラムへの参加）
- ・ JICA（講演会の実施）
- ・ 瀬戸商工会議所（パソコン講習会の実施）
- ・ 長久手市
（「大学生による起業・市の活性化に関する実施事業企画提案発表会」の共催、「長久手市長秘書インターンシップ」の募集協力等）
- ・ 長久手市教育委員会（施設借用に関する相談）
- ・ 長久手市商工会（パソコン講習会の実施）
- ・ 名古屋市立大学（中期計画、公開講座等に関する情報交換、連携事業の実施）
- ・ 豊田市（共催事業検討）
- ・ リニモ沿線合同大学祭実行委員会（事業への協賛）

(2) 学生のボランティア活動への支援

愛知県立大学ボランティア情報の取扱いに関するガイドライン

愛知県立大学は、学生によるボランティア活動を、社会・地域貢献活動の重要な一分野であり、大学生が社会人として自立することを支援する活動であると位置付ける。そのため、公益性・公共性が高く、大学生が行う取組みとして有益で、学生に対する教育的配慮がある活動に関する情報を提供する。

従って、原則として情報を受け入れることができる団体の範囲、情報を取り扱うことができない活動は以下のとおりとする。以下の基準によっても判断できない場合は、地域連携センター運営会議が判断するものとする。

1 情報を受入れることができる団体

- (1) 地方自治体
- (2) NPO法人
- (3) その他ボランティア活動を行う公共的団体

2 情報を取扱いできない活動

- (1) 資格を要する活動
- (2) 営利を目的とする活動
- (3) 責任体制が明確でない活動
- (4) ボランティア活動に必要な保険に加入していない活動
- (5) 大学生が行なう取組みとして、不相当と判断される活動

以上

愛知県立大学学生ボランティア・ステーション運営要綱

(趣旨)

第1 この要綱は、愛知県立大学に設置する愛知県立大学学生ボランティア・ステーション（以下、ボランティア・ステーションという。）の運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2 ボランティア・ステーションは、愛知県立大学学生（以下「学生」という。）によるボランティア活動の拠点として、学生と地域との連携を推進し、学生の地域貢献を支援すること、及び学生が主体的・能動的に企画・調整し行動する実践力を育成することを目的とする。

(業務)

第3 ボランティア・ステーションは、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 地域の機関と連携し、ボランティア活動に関する情報を収集し、学内へ発信すること
- (2) 地域ボランティア活動参加を希望する学生に対する相談と支援を行うこと
- (3) ボランティア活動に関する研修会等を企画・実施すること
- (4) ボランティア活動参加者又は参加団体の交流を行うこと
- (5) 災害時の支援を検討し実施すること
- (6) その他ボランティア活動に関すること

(運営)

第4 ボランティア・ステーションの運営は、学生ボランティア委員会に委託する。

2 学生ボランティア委員会は、ボランティア・ステーションに設置した備品を管理する。

(情報の取り扱い)

第5 ボランティア・ステーションは、ボランティア活動に関する情報を提供する。

2 提供する情報については、公益性・公共性が高く、大学生が行う取組みとして有益であり、学生の教育に資するものとする。

3 情報を受け入れることができる団体は、原則として次のとおりとする。

- (1) 地方公共団体
- (2) NPO法人
- (3) その他公共的活動を営む団体

4 情報を取り扱うことができない活動は、次のとおりとする。

- (1) 営利を目的とする活動
- (2) ボランティア活動に必要な保険に加入していない活動
- (3) 大学生が行なう取組みとして、不相当と判断される活動

5 その他ボランティア活動に関する情報の取り扱いについては、地域連携センター長が判断する。

(庶務)

第6 ボランティア・ステーションの庶務は研究支援・地域連携課が所掌する。

附則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

ボランティアステーション

<ボランティアステーションとは？>

(目的)

- ・学生の自己実現を支援する
- ・大学と地域をつなぐ架け橋になる

(活動内容)

- ・ボランティア情報を収集し、提供する
- ・校内のボランティア団体を繋げていくために交流の場を設ける（活動報告会を企画するなど・・・）

(運営メンバー)

教育福祉学部4年：梅村まき 松澤みさき

社会福祉学科2年：神戸紗也佳 久納静恵 中道槇子

ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻2年：大矢里美 松浦唯子

ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻1年：石橋加菜 上川夏林

<ボランティアステーションを作ったきっかけは？>

設立メンバーが二年前の夏に参加した“いわてGINGA-NET”の東北復興支援活動に参加したことで、東北での活動を通してボランティアセンターという組織が現地の大学にあることを知り、この組織が県大にもあったらいいなと感じました。

<ボラステ設立から現在までの活動記録>

5月	22日：開設
7月	24日：いわてGINGA-NET説明会
8月	7日：淑徳大学のCCC（淑徳のボランティアセンター）見学 長久手市役所環境課の人とごみ減量プロジェクトの協力依頼を受ける
10月	毎週水曜日：ごみ減量プロジェクト・報告会についてのミーティング 19日：ごみ処理場（晴丘センター）見学
11月	毎週水曜日：ごみ減量プロジェクト・報告会についてのミーティング
12月	1日：スポーツごみ拾い 9日：県大・淑徳大学合同ミーティング 11日：2013夏銀河・ボランティア報告会

<ごみ減量プロジェクトとは？>

2013年8月7日に長久手市環境課の方に「長久手市内の学生と協力してごみ減量プロジェクトを推進したい！」と声をかけてもらいました。それがこの活動の始まりです。

協力している大学は、愛知県立大学と愛知淑徳大学です。

私たちはまず、ごみについて理解を深めるために市役所の方と一緒に、ごみ処理場見学をしました。

そして学生にごみに少しでも関心を持ってもらうために何かないかと考えました。そこでごみの量を競って楽しんでごみ拾いをしてもらおうという意見が出ました。それが2013年12月1日に「スポごみdeながくて」という名で実際に行われました。

今後も「ごみ減量プロジェクト」は市役所の方と連携して続けていく予定です。

<夏銀河・ボランティア報告会とは？>

銀河参加者は活動内容、参加して感じたことなど発表してもらい、様々な活動団体には活動内容、目的、やりがい、など発表してもらいます。報告会の目的は、お互いの活動を知ること、思いを共有すること、です。また色々な考えを聞いて自分の視野を広げられる機会になれば良いなと思い報告会を開きました。

*ボラスメンバー



*ごみ処理場（晴丘センター）見学



*スポごみdeながくて



*夏銀河・ボランティア報告会



平成 25 年度 ボランティア・ステーション開所式

1. 開催日時：平成 25 年 5 月 22 日（水） 13:00～13:30
2. 主催者：愛知県立大学地域連携センター
3. 会場：長久手キャンパス 食堂ラウンジ 2 階
4. 出席者：高島 忠義（愛知県立大学 学長）
鎌倉 やよい（愛知県立大学 副学長）
戸田 尚宏（愛知県立大学 地域連携センター長）
学生代表
5. 参加者：（学生）約 30 名 （教員）約 20 名

【開会式の様子 学長挨拶】



【学長から学生に証書授与】



【テープカット】



【学生代表のあいさつ】



平成 25 年度 学生ボランティア報告会

1. 開催日時：平成 25 年 12 月 11 日（水） 12:30～15:00
2. 主催者：ボランティアステーション
3. 会場：長久手キャンパス H004 教室
守山キャンパス 小会議室 1（TV 会議システムにて中継）
4. 参加者数：一般と学生と教職員合わせて 48 名
5. 次第：【第 I 部】開会～復興支援委員長 鎌倉先生挨拶～夏銀河 2013 に参加した学生の発表（看護・1 期～4 期）
【第 II 部】地域連携センター長 戸田先生挨拶～ボランティア団体の発表（とびねこ→スクールボランティア→リニモ沿線合同大学祭実行委員会→ボランティアステーション）～愛知県立大学全学同窓会 小林会長挨拶～閉会

【会場の様子】



【司会のボランティアステーション代表神戸さん】



【鎌倉復興支援委員長挨拶】



【看護学部の発表（TV 会議にて中継）】



【第 1 期】



【第 2 期】



【第3期】



【第4期】



【戸田地域連携センター長挨拶】



【とびねこ】



【スクールボランティア】



【リニモ沿線合同大学祭実行委員会】



【ボランティア・ステーション】



【小林全学同窓会長挨拶】



【地域を支える人材の育成】

(1) 学術講演会

平成 25 年度 学術講演会 実施結果

1. 講演名：ヨーロッパと日本の経験から考える多文化共生
—移民との共生、地域アイデンティティの再生をめぐって
2. 開催日時：平成 25 年 10 月 28 日（月） 14:30～16:00
3. 開催場所：長久手キャンパス 講堂
4. 講師：宮島 喬 氏（お茶の水女子大学名誉教授）
5. 聴講者数：一般と学生 約 360 名

【講演の様子】



【講演の様子】



(2) 公開講座

平成 25 年度 公開講座 実施結果

1. 講座名：グローバル化時代の文化の境界
—多様性をマネジメントするヨーロッパの挑戦
2. 開催日時：第1回 11月2日(土)、第2回 11月9日(土)
第3回 11月23日(土)、第4回 11月30日(土)
第5回 12月14日(土)、第6回 12月21日(土)
3. 開催場所：長久手キャンパス 学術文化交流センター 小ホール
4. 受講申込者：79名(修了証授与者43名)

<講座内容>

○第1回 受講者数 56名

テーマ	講師
EU(欧州連合)が描くヨーロッパ像	中屋 宏隆 (外国語学部ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)
連邦制国家の挑戦と課題 —ベルギーとスイス	若林 広 (東海大学教養学部)



○第2回 受講者数 47名

テーマ	講師
地中海—サルデーニャ	竹中 克行 (外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)
バルト海—エストニアとラトヴィア	小森 宏美 (早稲田大学教育学部)



○第3回 受講者数 44名

テーマ	講師
異文化メディエーターが活躍する スペインの現場	糸魚川 美樹 (外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)
日本で外国にルーツを持つ子どもたち と学ぶ	高阪 香津美 (外国語学部国際関係学科)



○第4回 受講者数 42名

テーマ	講師
ラテンアメリカとヨーロッパ	谷口 智子 (外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)
アフリカとヨーロッパ	亀井 伸孝 (外国語学部 国際関係学科)



○第5回 受講者数 39名

テーマ	講師
和平合併後の北アイルランド —変わりゆくコミュニティ間の境界	福岡 千珠 (外国語学部国際関係学科)
地中海を渡る移民が映し出すテリトリーの 再編	北川 眞也 (三重大学人文学部)



○第6回 受講者数 42名

テーマ	講師
市民社会を鍛える政治の模索 —フランスの近隣民主主義	中田 晋自 (外国語学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)
ナショナリズムの相克を超えて —カタルーニャの歴史的経験から	奥野 良知 (外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)



(3) OB 教員による講座「県大アゲイン」

平成 25 年度 公開講座「県大アゲイン」 実施結果

1. 講座名：県大アゲイン「生きがい・人生の輝きとしての学び」
2. 日時：第1回 6月30日（日） 第2回 7月14日（日）
第3回 7月28日（日） 第4回 8月4日（日） すべて10:30～12:00
3. 会場：愛知県立大学サテライトキャンパス（名古屋市中村区名駅 ウィンクあいち 15階）
4. 参加者：申込数 79名（うち一般 62名、同窓会生 17名） 修了証授与者 44名（3回以上参加）

講座内容・講師名

○第1回：受講者数 54名

テーマ	講師
発達障がいのある人の「思い」に寄り添う	田中 良三（教育福祉学部教育発達学科） 昭和 52 年 4 月から平成 25 年 3 月まで在職



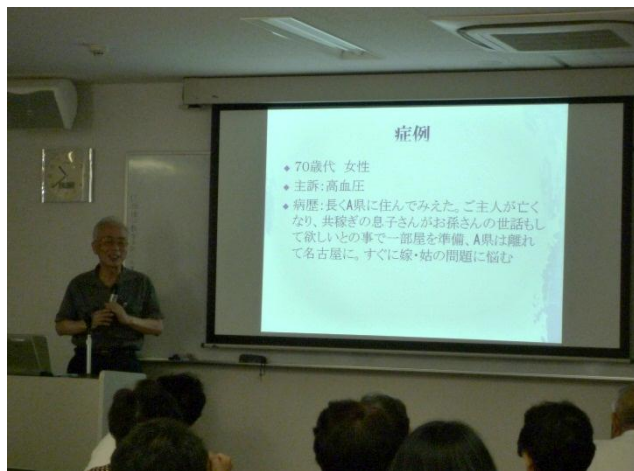
○第2回：受講者数 54名

テーマ	講師
絵とは何か—生活の中の芸術の意味を考える	長谷川 侑 氏（文学部児童教育学科） 昭和 51 年 4 月から平成 18 年 3 月まで在職



○第3回 : 受講者数 49名

テーマ	講師
あなたは終の棲家をどこにしますか —老人医療に関わって—	清水 潔 (文学部社会福祉学科) 昭和63年4月から平成19年3月まで在職



○第4回 : 受講者数 40名

テーマ	講師
都市と過疎をつなぐ教育	藤田 博仁 (教育福祉学部社会福祉学科) 平成12年4月から平成25年3月まで在職



(4)「愛知・長久手学」バスツアー

「愛知・長久手学」バスツアー実施結果

1. 事業概要

普段なにげなく過ごしている、瀬戸市・長久手市・豊田市に点在する史跡を、愛知県立大学の教員・院生が解説してめぐる「愛知・長久手学」バスツアーを開催。最初は定員30名で募集をしたが好評で38名の参加者と実施した。

2. 解説者

3月 1日(土) 担当：日本文化学部 歴史文化学科 教授 上川 通夫

3月 15日(土) 担当：大学院国際文化研究科 博士後期課程 服部 光真

3. 開催日及びコース

	開催日	コース
第1回	3月1日(土)	*瀬戸&長久手コース 藤が丘駅⇒愛知県立大学⇒瀬戸市本地大塚古墳⇒ 深川神社⇒四季乃舎⇒定光寺・徳川義直廟所⇒ 神明社古墳群⇒愛知県陶磁美術館(復元古窯・古窯館)⇒ 愛知県立大学⇒藤が丘
第2回	3月15日(土)	*豊田市コース 藤が丘駅⇒愛知県立大学⇒八草駅⇒中世・足助城⇒桧茶屋⇒ 古代・舞木廃寺塔跡⇒猿投神社と中世荘園故地⇒八草駅⇒ 愛知県立大学⇒藤が丘駅

4. 参加者数 第1回：38名 第2回：38名

5. 参加者の様子

【熱心に話を聞く参加者の方々】



【ツアーの様子】



(5) 地域連携事業

平成 25 年度実施 地域連携事業リスト

NO.	事業名	事業種別
1	「人類学映画の語り口」—アフリカを対象とした作品を事例に	協力
2	はじめてのインドネシア語講座	主催
3	インドネシア現地経済事情講習会	主催
4	モリコロパーク秋まつり ロボット展示	共催
5	四季・海上の森写真展	共催
6	2013 International Workshop on Smart Info-Media Systems in Asia (SISA2013)	共催
7	JICA ボランティアセミナー	主催
8	ワールド・コラボ・フェスタ 2013 における国際関係学科出展	共催
9	韓国外国語大学校長 朴哲先生講演会 「グレゴリオ・デ・セスペデスと文禄の役 スペイン人イエズス会士が みた朝鮮と日本」	主催
10	「文字のチカラ」展を楽しむために—名古屋市立大学の実践に学ぶ—	主催
11	キャリアジャパニーズ講座 「働く人のための日本語コミュニケーション」	主催
12	日本文学をスペイン語に訳すときの問題点 —人称、数、性、話し手など—	協力
13	International Symposium on Mixed-Race Issues in Japan and East Asia	共催
14	第 4 回愛知県立大学所蔵貴重書展示・講演会尾張・三河の俳人たち ～その文芸力とネットワーク～	協力
15	2013 年愛知県立大学・サンパウロ大学哲学文学人間科学部共同国際 シンポジウム 「古典文学の多元的地平—翻訳文学と歴史学との結節点を求めて—」	共催
16	ドキュメンタリー映画上映・講演会「みんなちがってみんないい」	協力

NO.	事業名	事業種別
17	講演会「メキシコ人類学・考古学の最新事情」#1 マヤの十字架：3千年続くメソアメリカ四分割の図像	協力
18	講演会「メキシコ人類学・考古学の最新事情」#2 古代都市テオティワカンと王墓最新発掘レポート	共催
19	「文字のチカラー古代東海の文字世界ー」企画 総合発表会「古代文字世界への招待」	共催
20	講演会「メキシコ人類学・考古学の最新事情」#3 古代都市テオティワカンと王墓最新発掘レポート	共催
21	第11回 NEXT30 産学フォーラム	共催
22	東京外国語大学長 立石博高先生講演会 「宮廷画家ベラスケスースペイン帝国と王権の表徴をめぐって」	共催
23	保育・幼児教育セミナー	共催

事業種別集計表

講座種別	今年度件数	対前年度比
主催	6	3
共催	12	8
協力	5	-3
後援	0	-1
事業件数合計	23	8

(単位：件)

平成 25 年度 地域連携事業 実施結果①

1. 事業名称：「人類学映画の語り口」—アフリカを対象とした作品を事例に
2. 事業種別：協力
3. 主催者：亀井 伸孝（愛知県立大学外国語学部准教授）
4. 開催日時：平成 25 年 7 月 3 日（水） 12:50～16:00
5. 会場：長久手キャンパス 学術交流センター 多目的ホール
6. 講師：川瀬 慈 氏（国立民族学博物館助教）
7. 参加者数：約 20 名

【司会者の亀井先生と講師の川瀬氏】



【講演される川瀬氏】



【会場の様子】



【講演される川瀬氏】

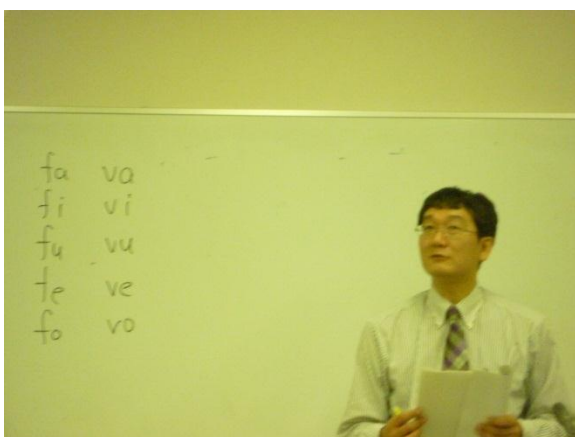


平成 25 年度 地域連携事業 実施結果②

(協力：あいち産業振興機構)

1. 事業名称：はじめてのインドネシア語講座
2. 事業種別：主催
3. 開催日時：平成 25 年 7 月 4 日（木）、7 月 11 日（木）、7 月 18 日（木）、
7 月 25 日（木）、8 月 1 日（木） いずれも 19:30～21:00
4. 会 場：愛知県立大学 学術文化交流センター
5. 参加者数：申込者 18 名 修了受講者 14 名
6. 講 師：高地 薫（愛知県立大学 多文化共生研究所 客員共同研究員）

【講座の様子】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果③

(後援：愛知県、一般社団法人中部経済連合会、公益財団あいち産業振興機構、名古屋商工会議所)

1. 事業名称：インドネシア現地経済事情講習会
2. 事業種別：主催
3. 開催日時：平成 25 年 8 月 7 日（水） 18:00～19:30
4. 会 場：愛知県産業労働センター（ウインクあいち）
5. 講 師：松井 和久（愛知県立大学 多文化共生研究所 客員共同研究員）
6. 参加者数：60 名

【会場の様子】



【講演される松井氏】



【講演される松井氏】



【質疑応答の様子】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果④

1. 事業名称：モリコロパーク秋まつり ロボット展示
2. 事業種別：共催
3. 主催者：愛知県（産業労働部 産業振興課 次世代産業室）
4. 開催日時：平成 25 年 9 月 21 日（土）～9 月 22 日（日） 両日 10:00～17:00
5. 会場：モリコロパーク 体育館
6. 来場者数：32,100 名（モリコロパーク秋まつり全体 2 日間合計）

【ロボット展示の様子】



【展示説明の様子】



【会場の様子】



【会場の様子】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑤

1. 事業名称：四季・海上の森写真展
2. 事業種別：共催
3. 主催者：あいち海上の森センター
4. 開催時期：平成 25 年 9 月 20 日（金）～平成 25 年 10 月 25 日（金）
5. 開催場所：愛知県立大学 H 棟 グラスアベニュー
6. 出展者：あいち海上の森大学 2 期生 佐藤 安彦氏
あいち海上の森大学 3 期生 魚住 俊文氏
7. 写真展の様子
展示数 40 点



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑥

1. 事業名称：2013 International Workshop on Smart Info-Media Systems in Asia (SISA2013)
2. 事業種別：共催
3. 主催者：電子情報通信学会スマートインフォメディアシステム研究会
4. 開催日時：平成 25 年 9 月 30 日（月）～平成 25 年 10 月 2 日（水）
5. 開催場所：愛知県産業労働センター ウィンクあいち
6. 講師：Shoaib Bhuiyan 准教授、神谷幸宏准教授、棟安実治教授、三林浩二教授、Andrzej Cichocki 博士
7. 参加者数：日本人研究者 121 名、外国人研究者 7 名

【会場の様子】



【会場の様子】



【講演の様子】



【講演の様子】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑦

1. 事業名称：JICA ボランティアセミナー
2. 事業種別：協力
3. 主催者：亀井 伸孝（愛知県立大学 外国語学部 准教授）
4. 開催日時：平成 25 年 10 月 21 日（月） 14:30～16:00
5. 開催場所：長久手キャンパス 講堂
6. 講師：佐屋 達紀 氏（青年海外協力協会 中部支部 ボランティア事業担当）
鈴木 健太 氏（派遣国：カメルーン、主な活動：小学校教諭）
奥田 ひと美 氏（派遣国：パラグアイ、主な活動：村落開発普及員）
7. 聴講者数：一般と学生 約 380 名

【講演の様子】



【講演の様子】



【講演の様子】



【講演の様子】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑧

1. 事業名称：ワールド・コラボ・フェスタ 2013 における国際関係学科出展
2. 事業種別：共催
3. 主催者：愛知県立大学グローバル人材育成事業
4. 会場：オアシス 21
5. 開催日時：平成 25 年 10 月 27 日（日）10:00～18:00
6. 参加者数：約 1,000 人（ブース来場者）
7. 実施状況：

当初は 10 月 26 日（土）～27 日（日）（両日とも 10 時-16 時）にブース出展を予定していたが、台風 27 号の影響により主催者が土曜日の開催を中止した。このため、10 月 27 日（日）1 日のみの開催となり、時間帯は 10 時-18 時と延長された。

国際関係学科およびヨーロッパ学科の学生たち計 20 名が準備し、当日に会場でブースを出展した。学生が海外で撮影した写真のパネル展示、関連インタビュー記事の掲示、アフリカの食材の調理法を紹介する多言語（日本語、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ポルトガル語、中国語、韓国・朝鮮語の 8 言語）によるレシピ配布などを行った。

参加者の感想として、以下のようなものがあった。

■ブーススタッフ学生

「海外の食文化について関心をもってもらえた」

「学科ウェブサイトのチラシを配布して、大学の広報ができた」

「学生が撮影した写真のエピソードを話すなかで、来場者と外国の話や大学教育の話についてなどの対話があった」

「さまざまな団体の方と交流があった」

■一般来場者

「県大の国際関係学科では、どんな勉強をしているんですか？」

「学生が撮った写真とは思えない、きれいだ」

「この食材はどこのものでしょうか。どうやって食べるのですか」

■高校生の保護者

「うちの娘にも受験を勧めてみたい」

■高校生たち

「自分も大学生になったら、このような活動に参加したい」

「県大を受験したいと思います」

学生においては、フィールドワークの成果を公開し、また、食文化研究の成果を多言語に翻訳して発信するよい学びの機会となった。また、来場者の関心は高く、学生の成果発表に対する質問があいつぎ、あわせて本学をPRするよい機会となった。

次年度も出展したいとの学生スタッフたちの要望が見られたため、本学によるこのような学生の取り組みへの支援のいっそうの充実が期待される。

【展示の様子】



【展示の様子】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑨

1. 事業名称：韓国外国語大学校学長 朴哲先生講演会
「グレゴリオ・デ・セスペデスと文禄の役 スペイン人イエズス会士がみた朝鮮と日本」
2. 事業種別：主催
3. 主催者：地域連携センター、多文化共生研究所、
4. 開催日時：平成 25 年 10 月 29 日（火） 16:10～17:40
5. 開催場所：愛知県立大学 長久手キャンパス S201 教室
6. 講師：韓国外国語大学校学長 朴哲（パク・チョル）氏
7. 参加者数：一般と学生 約 100 名

【高島愛知県立大学長挨拶】



【講演の様子】



【講演の様子】



【質疑応答の様子 通訳役 本学谷口先生】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑩

1. 事業名称：「文字のチカラ」展を楽しむために—名古屋市立大学の実践に学ぶ—
2. 事業種別：主催（特別協力 名古屋市立大学）
3. 主催者：地域連携センター
4. 開催日時：平成 25 年 11 月 6 日（水） 14:00～16:30
5. 会場：愛知県立大学 学術文化交流センター 多目的ホール
6. 講師：愛知県立大学 日本文化学部 教授 犬飼 隆
愛知県立大学 日本文化学部 教授 丸山 裕美子
名古屋市立大学 大学院人間文化研究科 教授 阪井 芳貴 氏
名古屋市立大学 大学院人間文化研究科 教授 吉田 一彦 氏
7. 参加者数：一般と学生合わせて 120 名

【犬飼先生の講演】



【阪井先生の講演】



【吉田先生の講演】



【丸山先生の講演】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑪

1. 事業名称：キャリアジャパニーズ講座「働く人のための日本語コミュニケーション」
2. 事業種別：主催
3. 主催者：地域連携センター、国際交流室
4. 開催日時：

回	日時	内容
第 1 回	11 月 11 日 (月)	履歴書やエントリーシートの実践 (自己分析の材料としての活動)
第 2 回	11 月 18 日 (月)	電話のかけ方、メールでの問い合わせのしかた (アポイントの取り方)
第 3 回	11 月 25 日 (月)	面接や会社訪問での日本語 (話し方、あいさつのしかた)
第 4 回	12 月 9 日 (月)	社内の日本語 (電話をとる、伝言をする、連絡をする、報告をする、など)
第 5 回	12 月 16 日 (月)	雑談とあいさつ (誘う、断る、話を切り出す、話を切り上げる、など)

5. 開催場所：愛知県立大学 サテライトキャンパス
6. 講師：加藤 淳 (愛知県立大学 外国語学部 客員共同研究員)
7. 対象：日本で働きたい留学生、日本でキャリアを積みたい外国人
日本語能力検定 N3 程度以上
8. 受講者数：9 名

【電話講習の様子】



【講師と受講者の様子】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑫

1. 事業名称：日本文学をスペイン語に訳すときの問題点—人称、数、性、話し手など—
2. 事業種別：協力
3. 主催者：「私語り」の成立と展開—日本とヨーロッパの言語文化における複合的新研究—研究会（平成 25 年度学長特別教員研究費による）
4. 開催日時：平成 25 年 11 月 14 日（木） 16:30～17:40
5. 会場：愛知県立大学 長久手キャンパス H004 教室
6. 講師：神戸市外国語大学 教授 福嶋 教隆 氏
7. 参加者数：一般と学生合わせて約 200 名

【久富木原日本文化学部長の挨拶】



【講演の様子】



【会場の様子】



【質疑応答】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑬

1. 事業名称 : International Symposium on Mixed-Race Issues in Japan and East Asia
2. 事業種別 : 共催
3. 主催者 : 渡会 環 (愛知県立大学 外国語学部 准教授)
4. 開催日時 : 平成 25 年 11 月 17 日 (日) 12:30~17:40
5. 会場 : 長久手キャンパス 学術文化交流センター 小ホール
6. 講師 : 渡会 環 (愛知県立大学 外国語学部 准教授)
Han, Geon-Soo 氏 (韓国 Kangwon National University)
HSIA Hsiao-Chuan 氏、CHEN, Chung-Ting 氏 (台湾 Shin Hsin University)
愛知県立大学学生

【会場の様子】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑭

1. 事業名称：第 4 回愛知県立大学所蔵貴重書展示・講演会
尾張・三河の俳人たち～その文芸力とネットワーク～
2. 事業種別：協力
3. 主催者：学術研究情報センター、稀書の会
4. 開催日時：平成 25 年 11 月 27 日（水） 13:30～16:00
5. 会場：愛知県立大学 長久手キャンパス S101 教室、図書館（関連展示）
6. 講師：伊藤 伸江（愛知県立大学 日本文化学部 教授）、稀書の会
愛知県総務部法務文書課県史編さん室 清水 禎子 氏
7. 参加者数：一般と学生合わせて 99 名

【伊藤先生の講演】



【稀書の会の発表】



【会場の様子】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑮

1. 事業名称：2013 年愛知県立大学・サンパウロ大学哲学文学人間科学部共同国際シンポジウム
「古典文学の多元的地平—翻訳文学と歴史学との結節点を求めて—」
2. 事業種別：共催
3. 主催者：愛知県立大学
4. 開催日時：平成 25 年 12 月 14 日（土） 10:30～17:00
5. 開催場所：長久手キャンパス 講堂
6. 講師：Madalena Hashimoto Cordaro 氏、Junko Ota 氏
（サンパウロ大学 哲学文学人間科学部）
Karel Fiala 氏（福井県文書館副館長）
今関 敏子 氏（川村学園女子大学）
高橋 亨 氏（名古屋大学名誉教授）
東 弘子、犬飼 隆、久富木原 玲、宮崎 真素美、三宅 宏幸、
大塚 英二、上川 通夫、川畑 博昭、丸山 裕美子（愛知県立大学教員）
7. 参加者数：一般と学生 246 名

【高島愛知県立大学長挨拶】



【講演の様子】



【講演の様子】



【全体討論とまとめの様子】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑩

1. 事業名称：ドキュメンタリー映画上映・講演会「みんなちがってみんないい」
2. 事業種別：協力
3. 主催者：多文化共生研究所
4. 開催日時：平成 25 年 12 月 16 日（月） 14:30～16:00
5. 会場：長久手キャンパス 講堂
6. 講師：映像作家 今村 彩子 氏
7. 聴講者数：一般と学生合わせて 350 名

【会場の様子】



【亀井先生挨拶】



【今村彩子氏講演】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑰

1. 事業名称：講演会「メキシコ人類学・考古学の最新事情」#1
マヤの十字架：3千年続くメソアメリカ四分割の図像
2. 事業種別：協力
3. 主催者：多文化共生研究所
4. 開催日時：平成 26 年 1 月 14 日（火） 16:10～17:40
5. 会場：長久手キャンパス 学術文化交流センター 多目的ホール
6. 講演内容：「イントロ：メキシコ人類学の現在」
杉山 三郎（愛知県立大学 大学院国際文化研究科 特任教授）
「マヤの十字架：3千年続くメソアメリカ四分割の図像」
ミゲール・アギレラ 氏（アリゾナ州立大学准教授）
7. 参加者数：51 名

【参加者の感想】

- ・マヤの人々の世界観には、全体を通して“生“を意識したものが多いことがわかった。
--あらゆるものを「生きているもの」とみなし、聖なる木にいけにえを捧げるだけでなく、いけにえと捧げられた動物もまるで生きているように扱う。
--聖なる木であるセイバの木は、年月を経ると下部がふくらみ妊娠したように見え、その木に捧げるものの中には、精液を意味するものがあったり、豚をかついで踊るときには、女性に蜜をかけることで性的な意味を持たせるなど。
- ・マヤ文明が木々を大切にしているところが興味深かった。他のメソアメリカの文明との比較をしたらおもしろいのではないかと思った。また、日本の文化（穢れの文化）と対立しているようでおもしろいと思いました。
- ・キリスト教の十字架は罪人をはりつけにする柱など天体の意味はないが、メソアメリカでは、四つの季節に分けるなど、天体に関係していることを知った。他のエリアで使われる十字架にも違う意味があるのかと思った。
- ・マヤの人々が「すべてのもの」を生きたものとして捉えている点が、日本のアニミズムとよく似ていると感じた。日本にも故人の霊が家族のちかくの森から見守っているというようなものはあるが、生贄にするために殺した豚を「まだ生きている」ものとして扱うという点には驚いた。神に捧げられたものは生き続けるということなのだろうか。

【講演の様子】



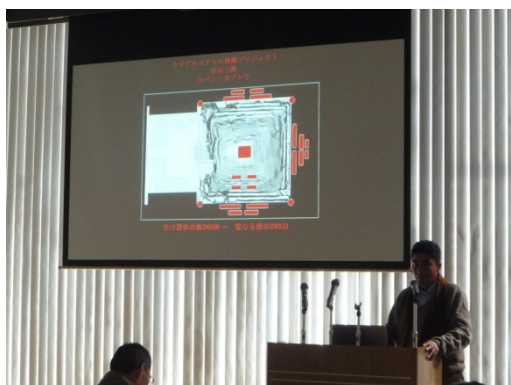
平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑩

1. 事業名称：講演会「メキシコ人類学・考古学の最新事情」#2
古代都市テオティワカンと王墓最新発掘レポート
2. 事業種別：共催
3. 主催者：多文化共生研究所
4. 開催日時：平成 26 年 1 月 18 日（土） 12:30～14:30
5. 会場：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター 体験学習室 2・3
6. 講師：セルヒオ・ゴメス 氏（メキシコ国立人類学歴史学研究所研究員）
7. 参加者数：40 名

【参加者感想】

- ・メキシコを知らない人にも、興味を持ってもらえるようなきっかけを作れたらと思う。
- ・王墓が初めて開明される意義は大きく、テオティワカンの歴史を知るようで興味深い。
- ・古代文明研究のまさに最新の情報を聞くことができ大変興味深い講演だった。
- ・発掘などの様子（作業）なども見られると良かった。
- ・実際の発掘プロジェクトとかかわりを持つメキシコの学者の説明は、すごく最新事情の様子が感じられて良かった。王墓発見を祈ります。
- ・今まで直接、考古学者からお話を聞く機会がなく、わかりやすく良かった。
- ・先生の講演、セミナーに参加したいと思っていました。市民講座でセミナーを開講してほしい。ゴメス先生の最新の報告、興味深く拝聴しました。今後の発掘を期待します。
- ・地下界の存在、天動説からくる観念、非常に勉強になりました。
- ・メキシコには行ったことはないが、イントロダクションとしての解説があり、興味をもって、テオティワカンの話を聞くことができました。メキシコの文化、食べ物に興味を持ちました。1521 年の征服以前の文明に面白さを感じました。古代の人々の思想に基づいたピラミッドを作ったり、地下道を作ったりした事が夢のように思います。今の現代人は、思想に基づいた建築はあるのだろうかと思議さを感じます。現代人の文化文明を見直す必要があると思います。

【会場の様子】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑱

1. 事業名称：「文字のチカラ—古代東海の文字世界—」企画
総合発表会「古代文字世界への招待」
2. 事業種別：共催
3. 主催者：名古屋市博物館、愛知県立大学、愛知大学（特別協力：名古屋市立大学）
4. 開催日時：平成 26 年 1 月 19 日（日）10:00～12:00、13:00～16:00
5. 開催場所：名古屋市博物館
6. 発表内容：

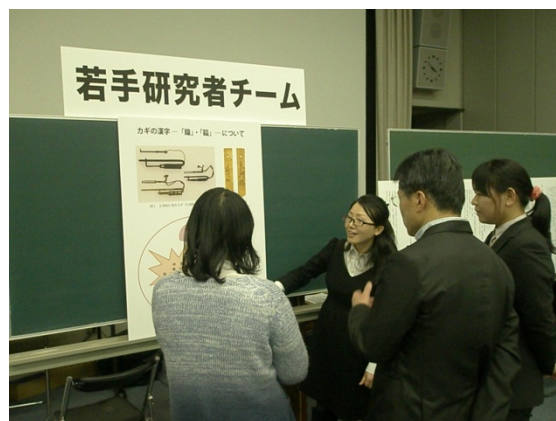
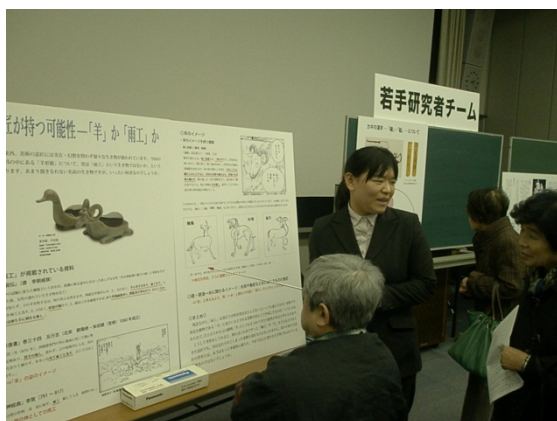
「御野国戸籍」をよむ	鈴木 喬（愛知県立大学 客員共同研究員）
「意匠が持つ可能性—「羊」か「雨工」か	熊澤 美弓（愛知県立大学 客員共同研究員）
「日本・中国・韓国の則天文字」	浅岡 悦子（名古屋市立大学 院生）
「観世音経巻」の木簡と観音信仰	市岡 聡（名古屋市立大学 院生）
「日本古代の暦」	内田 敦士（大阪大学 院生）
「カギの漢字—「鑰」・「鎰」—について	方 国花（奈良文化財研究所）
7. 参加者数：約 300 名
8. 実施概要：

愛知県立大学、名古屋市立大学、大阪大学、奈良文化財研究所の若手研究者（院生・ポスドク）が名古屋市博物館特別展「文字のチカラ—古代東海の文字世界—」に関連したパネル発表をおこない、問題点や歴史的背景などをわかりやすく解説した。

【参加者感想】

 - ・展示の背景となることならをわかりやすく解説いただき、歴史や文化により興味を持つことができた。
 - ・子ども向けの解説やクイズがあつてよかった。

【発表会の様子】



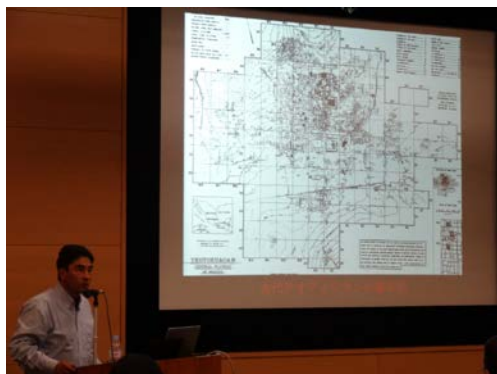
平成 25 年度 地域連携事業 実施結果⑩

1. 事業名称：講演会「メキシコ人類学・考古学の最新事情」#3
古代都市テオティワカンと王墓最新発掘レポート
2. 事業種別：共催
3. 主催者：多文化共生研究所
4. 開催日時：平成 26 年 1 月 21 日（火） 12:50～14:20
5. 会場：長久手キャンパス 学術文化交流センター 多目的ホール
6. 講師：セルヒオ・ゴメス 氏（メキシコ国立人類学歴史学研究所研究員）
7. 参加者数：92 名

【参加者感想】

- ・ 2 千年前の都市が計算されて作られたこと、そして排水路などの機能を持ち合わせていたことに驚いた。風化が進む中でそれを保存していく難しさと大切さを知った。文化人類学の講義とはまた違った実際に発掘に携わる方の話はとても興味深かった。
- ・ 実際に調査を行っている人の話を聞くという機会は初めてだった。歴史の教科書でしか聞いたことのない「テオティワカン」という言葉についてもより深く知ることができた。調査の最中に穴が見つかって・・・という話はまるで映画みたいな話だと思ったし、その発見によって、これまでの定説が覆るまでになったのは歴史的にもすごいと感じた。
- ・ メキシコの若者は、日本とは対照的に考古学に興味を持つ人が多いというのは驚きだった。メキシコには貴重な遺跡がたくさんあって魅力的だと感じた。研究によって様々な生活様式を発見できるのはとても感動した。考古学には未知の事実がたくさんあり、とてもわくわくする学問だと思った。
- ・ 発掘が進むにつれ、ピラミッドが暦だけでなく、神話の世界を表しているという発表を聞いて、テオティワカンの文明の人々は高い信仰心を持っていたのだと感じ、何が人々をそこまで信仰させたのか、何が人々に巨大なピラミッドと地下空間を作るようにさせたのか不思議に思いました。

【会場の様子】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果①

1. 事業名称：第 11 回 NEXT30 産学フォーラム
2. 事業種別：共催
3. 主催者：一般社団法人 中部経済連合会
4. 開催日時：平成 26 年 2 月 6 日（木） 17:00～21:00
5. 開催場所：愛知県立大学 長久手キャンパス H005 等
6. 講演内容：「スーパーコンピュータによる宇宙衛星開発」
篠原 主勲 氏（大同大学 総合機械工学科 准教授）
「遊びをせんとや生れけむ—遊戯性の文化人類学と人類の進化」
亀井 伸孝（愛知県立大学 外国語学部 准教授）
「ロマンに生きてもいいじゃないか—世界遺産としてのメキシコ考古学の魅力」
杉山 三郎（愛知県立大学 大学院国際文化研究科 特任教授）
その後、iCoToBa、AV システム、ドライビングシュミレータ、ロボカップを見学。

【学長挨拶】



【大同大学 篠原先生 講演の様子】



【亀井先生 講演の様子】



【杉山先生 講演の様子】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果②

1. 事業名称：東京外国語大学長 立石博高先生講演会
「宮廷画家ベラスケス—スペイン帝国と王権の表徴をめぐって」
2. 事業種別：共催
3. 主催者：愛知県立大学 世界史研究会
4. 開催日時：平成 26 年 2 月 8 日（土） 16:00～18:00
5. 開催場所：愛知県立大学 サテライトキャンパス
6. 講師：東京外国語大学学長 立石 博高 氏
7. 聴講者数：66 名

【会場の様子】



【講演の様子】



【講演の様子】



【質疑応答】



平成 25 年度 地域連携事業 実施結果②

1. 事業名称：保育・幼児教育セミナー
2. 事業種別：共催
3. 主催者：生涯発達研究所
4. 開催日時：平成 26 年 2 月 16 日（日） 13:00～17:00
2 月 17 日（月） 10:00～12:00
5. 開催場所：長久手キャンパス 学術文化交流センター 多目的ホール
6. 講師：Sydney Gurewitz Clemens 氏
7. 参加者数：108 名

【講演の様子】



【講演の様子】



(6) 高大連携事業

平成 25 年度 高大連携事業 実施結果①

「知の探究講座」

(県教委事業、教育福祉学部公開講座)

講座名：「人の心を知る」

会 場：長久手キャンパスH棟、B棟、学術文化交流センター内

参加者：45名（県内高校からの希望者）

実施日程および内容

	実施日	担当教員	講座内容
第1回	8月5日(月)	松宮 朝 准教授	① ガイダンス ② 社会調査からとらえる人の心
第2回	8月6日(火)	佐野 治 准教授 堀尾 良弘 教授	③ 面接を体験してみよう ④ 少年非行と人の心
第3回	8月7日(水)	加藤 義信 教授 湯 海鵬 教授	⑤ 脳と心 ⑥ 人の健康と心
第4回	8月8日(木)	村田 一昭 准教授 山本 かほり准教授	⑦ 自己理解と他者理解 ⑧ ライフヒストリーと心
第5回	8月9日(金)	宇都宮 みのり准教授 中藤 淳 教授	⑨ 心の動きと交流パターン ⑩ 心理学からとらえる人の心
第6回	10月26日(土)	高橋 範行 准教授 稲嶋 修一郎准教授	⑪ 音楽と人の心 ⑫ 身体活動と人の心
第7回	11月2日(土)	吉川 雅博 教授 橋本 明 教授	⑬ 障がい体験から「コミュニケーション」を知る ⑭ 心と社会と歴史
第8回	11月9日(土)	松宮 朝 准教授	⑮ 報告に向けてのまとめと作業 ⑯ 学内報告会

※時間は各日とも 10:00～16:00

〈第1回〉



〈第2回〉



〈第3回〉



〈第4回〉



〈第5回〉



〈第6回〉



〈第7回〉



〈第8回〉



〈講座別発表会〉



平成 25 年度 高大連携事業 実施結果②

1. 事業名称 : 愛知県高等学校工業教育研究会電気部会第 1 回研究会
2. 事業種別 : 共催
3. 主催者 : 愛知県高等学校工業教育研究会電気部会
4. 開催日時 : 平成 25 年 6 月 26 日 (水) 13:00~16:30
5. 会場 : 長久手キャンパス情報科学部 情報科学共同研究所
6. 講師 : 小栗 宏次 (愛知県立大学 情報科学部 教授)
7. 講義題目 : 「ウェアラブルセンサによる生体信号解析技術の応用」
8. 参加者数 : 約 30 名

【講演される小栗先生】



【講演される小栗先生】



【会場の様子】



【会場の様子】



平成 25 年度 高大連携事業 実施結果③

1. 事業名称：愛知工業高校 課題研究発表会
2. 主催者：愛知工業高校
3. 開催日時：平成 26 年 1 月 24 日（金） 13:25～15:15
4. 会場：愛知工業高校 視聴覚室
5. 講師：河中 治樹（情報科学部 講師）
伊藤 正英（情報科学部 助教）
6. 対象：愛知工業高校 情報技術科 3 年、2 年、関係職員
7. 概要：愛知工業高校の依頼により、3 年生の課題研究発表会に本学教員が出席。
1 年を通じて学んだことを 6 チームに分かれ発表し、本学教員がコメンテーターとして、生徒の研究発表を講評した。
(次 第)
1.FLASH → 2.資格取得成果発表 → 3.LEGO&マイコンカーラリー →
4.ソフトウェア開発ゲーム製作→5.ロボット製作&アイデアコンテスト→
6.サーボ&シーケンス制御

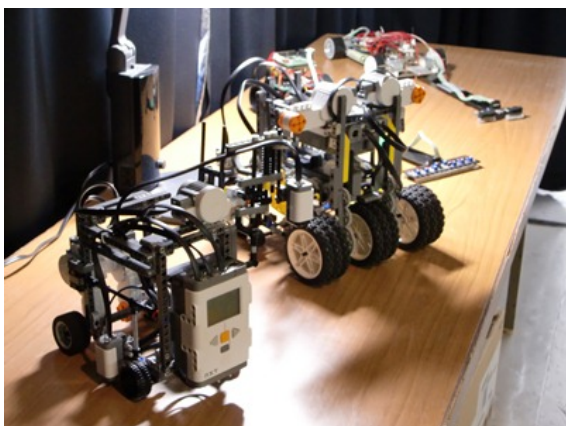
【会場の様子】



【発表の様子】



【発表作品（LEGO ロボット）】



【講評の様子】



(7) あいち地域づくり連携大学

「あいち地域づくり連携大学」 実施結果 (愛知県地域振興部との共催)

1. 開催日及び各回テーマ

	開催日	テーマ
第1回	10月30日(水)	長久手市が目指す住民協働と地域共生ステーションのねらい
第2回	11月13日(水)	新たにオープンした地域共生ステーションの現地視察
第3回	11月27日(水)	地域を元気にする西小校区共生ステーションの活用方法(演習)
第4回	12月18日(水)	地域を元気にする西小校区共生ステーションの活用方法(成果発表)

2. 会場 第1回、第3回：愛知県立大学 学術文化交流センター 文化交流室 A

第2回、第4回：長久手市 西小校区共生ステーション

3. 参加者数 第1回：35名 第2回：33名 第3回：23名 第4回：26名

4. 事業概要

長久手市をモデルとし、長久手市が目指す住民協働の姿や、具体的に住民協働で進めている地域共生ステーションの取組を題材に、これからの住民が主役の地域づくり(地域自治)について学ぶとともに、市町村職員と学生によるグループワークにより、自由な発想で地域の居場所(拠点)のあり方について構想し、具体的な事業アイデアとして提言を行った。

5. 事業の様子

【第1回】



【第2回】



【第3回】



【第4回】



(8) 愛知県地域づくり活動フォーラム

「愛知県地域づくり活動フォーラム」 実施結果 (愛知県地域振興部との共催)

1. 開催日時：平成 26 年 2 月 7 日（金） 14:00～16:30
2. 会 場：長久手キャンパス 学術文化交流センター 多目的ホール
3. 参加者数：約 140 名
4. 当日のプログラム：
 - ①平成 25 年度愛知県地域づくり活動表彰式及び事例発表（5 団体）
「岩屋緑地に親しむ会（豊橋市）」、「菱野地域力まちづくり協議会（瀬戸市）」
「布袋地区鉄道高架・街づくり協議会（江南市）」、「南粕谷コミュニティ（知多市）」
「矢並湿地保存会（豊田市）」
 - ②愛知県立大学 学生グループ「リニモ沿線合同大学祭実行委員会」による活動報告
・テーマ「りにさいの活動を通して」～関心を向けることの大切さ～
・発表者 梅村 真季（愛知県立大学教育福祉学部教育発達学科 4 年）
中野 圭（愛知県立大学教育福祉学部教育発達学科 4 年）
 - ③講演「魅力的な地域づくりへのかかわりかた」
講師：宗次 徳二 氏
(カレーハウス CoCo 壱番屋創業者、特定非営利活動法人イエロー・エンジェル理事長)
5. 会場の様子

【活動表彰式】



【学生グループによる活動報告】



【事例発表】



【宗次氏講演】



【地域の多様な団体との連携】

(1) 日進市とのスクールソーシャルワーカー派遣に関する協定締結

日進市教育委員会とのスクールソーシャルワーカーを活用した地域相談 支援体制の構築に関する連携協定の締結について

日進市教育委員会と愛知県立大学は、「スクールソーシャルワーカーを活用した地域相談支援体制の構築に関する実践的研究」事業について、協定を締結いたしました。

○協定締結日

平成 25 年 8 月 26 日（月）

○協定締結の目的

児童や生徒が学校や日常生活で直面する苦しみや悩みについて、児童・生徒の社会環境である家族、友人、学校、地域に働きかけ、福祉的なアプローチによって解決を支援する専門職である「スクールソーシャルワーカー」の活用について、日進市内の小中学校（平成 25 年度は香久山小学校）の場を提供し、地域相談支援体制を構築する研究をすすめる。

○内容

学校現場では、社会状況の変化や価値観の多様化により、これまでの経験では解決が難しい様々な諸問題が発生しており、その数も増加の一途を辿ってきている。そこで、スクールカウンセラー・心の相談員などの配置等で対応を図っているが、学校現場の教員は多忙を極め、児童や生徒及びその保護者の相談には、十分に対応しきれていないのが現状である。特に、原因が複雑で、地域や様々な専門機関との連携や支援が必要な事案に対してその解決を支援する体制の改善が、子どもたちの「心の居場所作り」「心の安定」には欠かせない。

そこで、このたび地域相談支援体制を構築する研究を行い、学校・家庭・地域がより連携して子どもたちの健全育成を図る教育環境の実現を目指していく。

【協定書を交わす日進市の青山教育長（右）

と本学教育福祉学部学部長坪井教授（左）】

【協定締結後、主なメンバーでの打合せ】



(2) 長久手市大学連携推進協議会への参加

長久手市大学連携推進協議会への参加について

長久手市と市内 4 大学（愛知県立芸術大学、愛知医科大学、愛知淑徳大学、愛知県立大学）は、まちづくりにおいて、大学が有する知的資源や特色を活かし、学術研究の場や機会を大学に提供するなど、相互の発展や充実に向けて組織的な連携を深めることにより、「人が輝き 緑があふれる 交流都市」としてふさわしい地域社会づくりに資することを目的として、平成 24 年 12 月 20 日に長久手市大学連携推進協議会を設置しました。

本協議会の主旨に基づき、平成 25 年度は以下の事業を実施いたしました。

○協議会連絡調整会議の開催（課長級により組織）

第 1 回 平成 25 年 5 月 28 日（火）

○協議会の開催（部長級により組織）

第 1 回 平成 25 年 6 月 21 日（金）

○大学生による起業・市の活性化に関する実施事業企画提案発表会

昨年度実施した「市長と学生が語る会～起業のすすめ～」において募集した、起業や市の活性化に対する企画提案について、地域の方と交流する中で、事業を進めることを目指し、下記 4 件の企画提案発表会を実施した。

（提案発表内容）

- ・リニコン（リニモでコンビニエンスストア）
- ・リニモ沿線子育て支援マップ作成事業
- ・子育て支援のための「社会的いくじい」の育成
- ・Reborn 長久手～今までの長久手 100 年後の長久手～

○市長秘書インターンシップ

市長の秘書業務を通じて、市の実情や市政運営への理解促進、通学する地域への愛着を育むとともに、将来に向けた職業観の醸成と社会体験を目的として、3 回実施した。

○長久手市広報 学生記者

大学での活動や長久手市に関することについて、学生目線で取材をし、長久手市の広報紙の記事作成に関わることにより、広報への興味関心を高めることを目的として、約 6 か月間実施した。

○相互の企画事業の周知協力

(3) 「日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2014」への参加

「日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2014」への参加概要

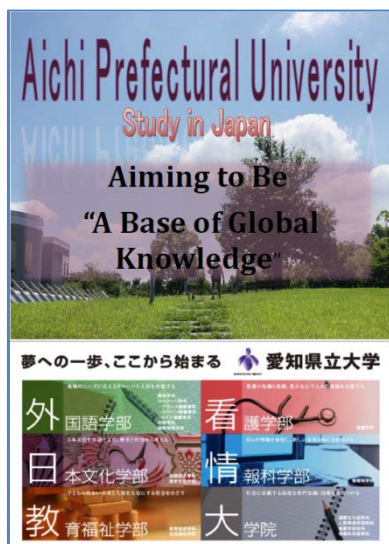
独立行政法人科学技術振興機構（JST）が主催する「日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2014」に本学教員が2名参加しました。

○参加者

地域連携センター長（情報科学部教授） 戸田 尚宏
国際交流室長（教育福祉学部教授） 吉川 雅博

○概要

- フェア（第19回中国国際教育巡回展への参加）
北京会場（全国農業展覽館）
展示日時：平成26年3月15日（土） 10:00～16:30
平成26年3月16日（日） 10:00～16:30
- フォーラム及び日中交流会
フォーラム・日中交流会（首都大酒店）
日時：平成26年3月19日（水）
 - ・9:30-11:40 開会挨拶、来賓挨拶、特別講演、基調講演（主会場）
 - ・13:30-17:00 パネルディスカッション1（主会場）
パネルディスカッション2（分科会会場）
 - ・18:00-20:00 日中交流会
- 大学及び産学連携関連機関視察
視察1：平成26年3月17日（月）清華大学
視察2：平成26年3月18日（火）中関村サイエンスパーク
視察3：平成26年3月21日（金）浙江大学サイエンスパーク
- 展示ポスター



(4) 産業界との連携事業

平成 25 年度 ガジャマダ大学産学連携プロジェクト 実施結果

インドネシアの古都ジョグジャカルタに所在する同国きっての名門ガジャマダ大学と私たち愛知県立大学が、相互に蓄積してきた専門性を活かして、経済成長著しいインドネシアに進出する現地日本企業で活躍しうる次世代の知日派人材を育成するための産学連携事業が今年度よりはじまりました。

両大学は平成 22 年に学術交流協定を締結して以来、各種交流を活発にすすめてきましたが、このたび産学連携によるインドネシア人理・工系、政・経系学生用のインターンシッププログラムを、地元産業界、特にインドネシアに進出中の日本企業とタイアップして実施することになりました。

産・学の有機的な連携の下、両大学がこれまで培ってきた情報、資源、研究成果等の交流をさらに深め、知日派インドネシア人学生の育成とそのキャリア活動の支援をおこないつつ、産学連携活動のさらなる活性化を目指すものです。

1. 日程及び内容：

実施日	内容	担当された方
8/26～9/20	ガジャマダ大学での高校レベル日本語既習者への日本語再教育プログラム（参加学生 25 名）	愛知県立大学 客員共同研究員 加藤淳先生・高地薫先生
9/10	参画企業による現地講座① 於ガジャマダ大学	豊田通商インドネシア社長 中山弘揮氏
10～11 月	キャリアセミナー 於ガジャマダ大学	愛知県立大学 客員共同研究員 松井和久先生
12/13	参画企業による現地講座② OJT 担当スタッフによる講習 於ガジャマダ大学	豊田通商インドネシア Project Planning Division 青山泰介氏
2/10～2/28	豊田通商インドネシア(ジャカルタ)にて選抜 2 学生のインターンシップ	豊田通商インドネシアの皆様

【9/20 日本語再教育講座修了式

中央左 エルワン政治学部長】



【9/20 日本語再教育講座修了式

左端 エルワン政治学部長】



【12/13 TTI 青山氏による現場担当者講座

於ガジャマダ大学】

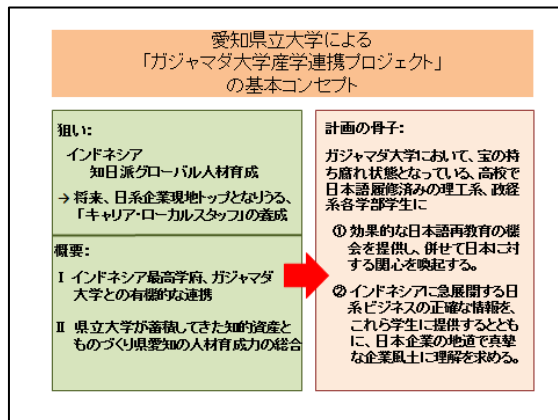


【2/10 TTI でのインターンシップ開始

後列左より一人おいて中山社長、選抜2学生】



2. プロジェクトの概要

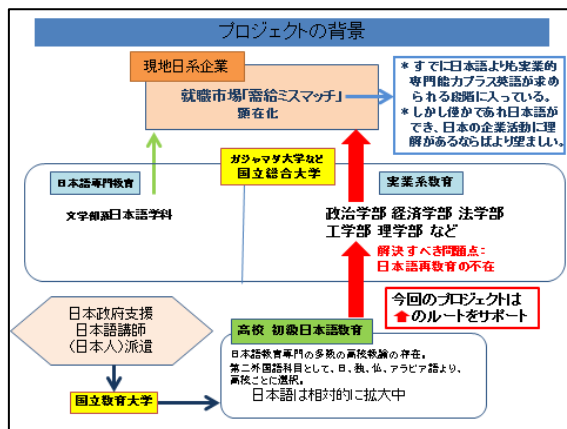


ガジャマダ大学(Universitas Gadjah Mada)について

- 独立直後の1949年に当時の臨時首都であったジョグジャカルタ市に設置された、同国最初の国立大学。
- 同国最多の18学部を擁し、基幹的な総合大学として、他の国立・私立大学に教員を供給する機能を担う。
- 同国最上級の入試難関校であり、優秀な人材を輩出、卒業生は政・官・財の各界で活躍。
- 代表的な国際大学指標、The Times Higher Education Supplement ランキングによれば、世界第300位、国内では第1位(2007年)、日本の名大・北六・九大などと同レベル。
- 教員に日本留学組が多く、日本の大学で博士・修士を取得した者は大学全体で200人超。
- プティオ/副大統領(経済学者)は同大経済学部の現職教授。






愛知県立大学によるこれまでの活動


I. 2011年7月19日～31日
ガジャマダ大学複数学部の優秀学生10名を招聘、愛知県立大学において日本関係の各種集中講義を実施。

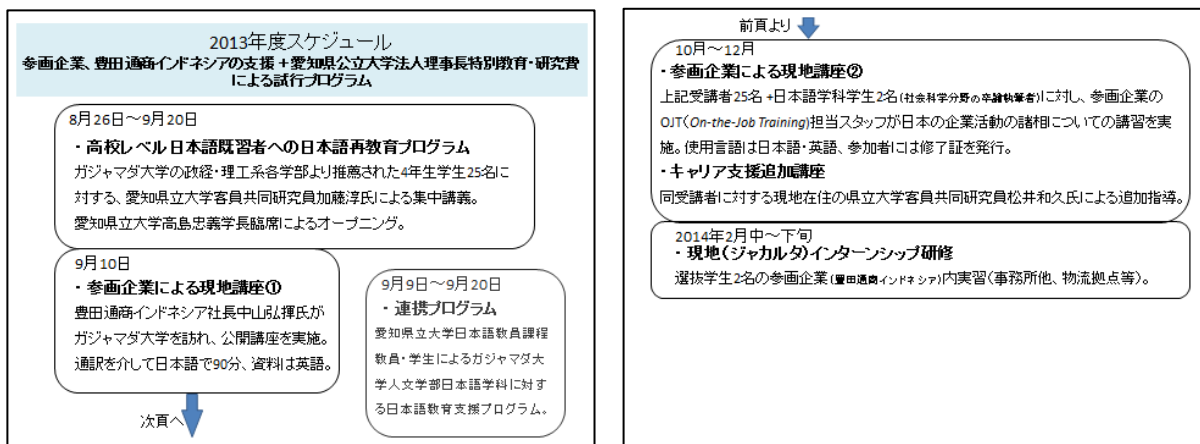
【成果】
高校時に日本語履修のある工学部学生は、英語併用ではあるが専門ゼミ参加可能なレベルまでの語学力を得た。一方、ネイティブ教員に接する機会を得た日本語学科学生は、日本語運用能力を飛躍的に上昇させた。



II. 2012年9月1日～17日
愛知県立大学教員が日本語教師志望学生9名を伴い、ガジャマダ大学を訪問。全学部対象の日本語再教育講習と学生の教育実習を兼ねた日本語学科特別会話授業を実施。

【成果】
高校時に日本語学習歴の持つ、理系・文系、様々な学部の学生が再教育講習に参加し、一定の日本語コミュニケーション能力を獲得できた。日本語学科では過半数の学生がネイティブによる集中的な日本語教育の機会に接し、日本語学習に対するモチベーションを高めた。





3. 今後の予定

2014～16年度については、豊田通商インドネシアに加えて、新たにトヨタ系現地企業4社が参加することになります。

これに伴い、「参画企業による現地講座①、②」は、今年度の各1回(計2回)から各5回(計10回)に拡大する他、現地インターンシップ参加者も今年度の2名から10名に増員します。また、現地インターンシップ参加者より数名を再選抜し、愛知県立大学に短期留学招聘の予定です。

長久手市商工会パソコン講習会実施結果

(長久手市商工会との共催)

1. 開催日時：平成 25 年 6 月 5 日（水） 16:10～17:40
2. 会 場：情報科学部棟コンピュータ演習室 6
3. 参 加 者：長久手市内の小規模事業者 10 名
4. 目 的：小規模事業者のレベルアップを図るため、パソコン講習会を実施
5. 講師及び内容

講師：愛知県立大学情報科学部学部生（PBL（授業）として実施）

エクセルコース

パワーポイントコース

ワードコース

6. 会場の様子

【開講式】



【講習風景】



【講習風景】



【講習風景】



瀬戸商工会議所パソコン講習会実施結果

(瀬戸商工会議所との共催)

1. 開催日時：平成 25 年 6 月 5 日（水）14:30～16:00
2. 会 場：情報科学部棟コンピュータ演習室 6
3. 参 加 者：瀬戸市内の小規模事業者 10 名
4. 目 的：小規模事業者のレベルアップを図るため、パソコン講習会を実施
5. 講師及び内容

講師：愛知県立大学情報科学部学部生（PBL（授業）として実施）

エクセルコース

パワーポイントコース

ワードコース

6. 会場の様子

【開講式】



【講習風景】



【講習風景】



【講習風景】



平成 25 年度 モリコロパーク夏まつり ロボット展示 実施結果

1. 事業名称：モリコロパーク夏まつり ロボット展示
2. 開催日時：平成 25 年 7 月 13 日（土）～14 日（日）
両日とも 13:00～18:00
3. 会 場：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター 体験学習室 1
4. 概 要：
一般の方を対象に最新のロボットを紹介し、理解を深めてもらうため実演展示を実施しました。愛知県立大学の他、愛知県次世代産業室、愛知工科大学、(株) ifoo の 4 団体が共同出展しました。

愛知県立大学からは、以下の実演展示を実施しました。

- ・ロボカップ世界大会のビデオ上映、ロボットの展示
- ・教育用レゴ マインドストームによる路線の自動追尾走行
- ・マイクロマウスによる迷路攻略

【ロボカップ世界大会のビデオ上映】



【マイクロマウスによる迷路攻略】



【教育用レゴによる路線の自動追尾走行】



【会場の様子】



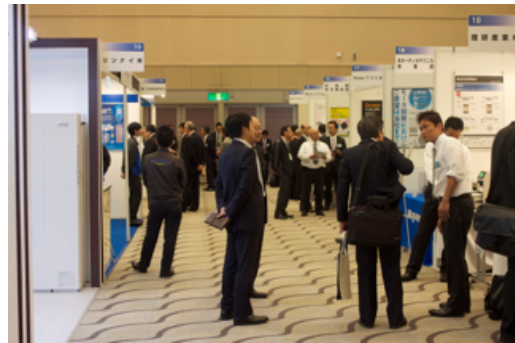
平成 25 年度 フロンティア 21 エレクトロニクスショー-2013 の展示 実施結果

1. 事業名称：フロンティア 21 エレクトロニクスショー
2. 開催日時：平成 25 年 11 月 6 日(水)～7 日(木)
両日とも 10:00 ～ 17:00
3. 会 場：名古屋国際会議場 白鳥ホール
4. 来場者数：2,011 名（展示会・セミナー合計）

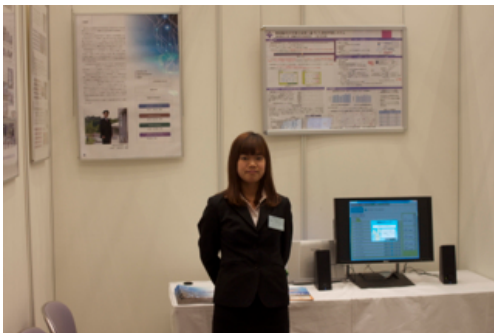
【会場入口】



【会場風景】



【展示の様子(初日)】



【展示の様子(2日目)】



平成 25 年度 ヴィチェンツァ県商工会議所視察団受入 実施結果

1. 事業名称：平成 25 年度 ヴィチェンツァ県商工会議所視察団受入
2. 主 催 者：産学連携推進室、情報科学部小栗研究室
3. 開催日時：平成 25 年 11 月 28 日(木) 16:00 ~18:20
4. 会 場：愛知県立大学長久手キャンパス C 棟南側駐車場、
情報科学部棟、学術文化交流センター小ホール
5. 視 察 団：商工会議所会員 25 名、通訳 1 名、コーディネーター1 名、
日本側受入メンバー9 名

【会場の様子】



【会場の様子】



【EV 展示の様子】



【研究説明の様子】



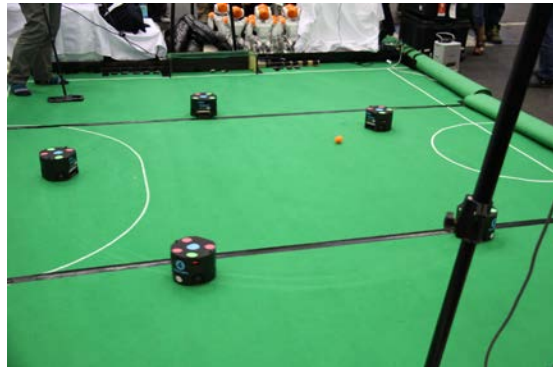
あいち ITS ワールド 2013 への出展 実施報告

1. 事業名称：あいち ITS ワールド 2013 への出展
2. 主催者：愛知県 ITS 推進協議会
3. 開催日時：平成 25 年 12 月 11 日(木) ～ 15 日(日) 9:00～18:00
4. 会場：ポートメッセなごや (名古屋モーターショー併催)
5. 来客数：194,500 名 (4 日間 会場全体 名古屋モーターショーも含む)
6. 出展メンバー(敬称略)：小栗、成瀬、村上、小林、河中、伊藤、堀田、学生 26 名
《ブース展示》

(左) 【道路環境調査用車両の展示 (小栗研究室)】



(右) 【車輪型ロボットによるサッカーのデモンストレーション (成瀬・村上・伊藤研究室)】



(左) 【ヒューマノイドロボットによるダンスのデモンストレーション(小林研究室)】



(右) 【ヒューマノイドロボットと車輪型ロボットのコラボレーション(成瀬・村上・小林・伊藤研究室)】



【ヒューマノイドロボットとの対話体験(小林研究室)】



これらのほか、研究所パンフレット、年報の配布を実施(情報科学共同研究所)

《ITS 討論会への参加》



学生2名によりブースの出展内容の紹介とITS専門家との討論をおこないました。

【情報科学部4年 西野咲子】



【情報科学研究科1年 布目裕司】



NEXT COMMUNICATION AWARD 2013 で、情報科学部の学生が多数表彰されました

2014年1月11日(土)に情報科学部の学生10名が、NEXT COMMUNICATION AWARD 2013のWebアプリ開発部門とネイティブアプリ開発部門において受賞しました。

(左)【グランプリを受賞した森田さん、角谷さん、金森さん】

(右)【NCF2013表彰式】



NEXT COMMUNICATION AWARD 2013 とは？

産官学共同プロジェクトである NEXT COMMUNICATION FORUM が主催するコンテストで、「アイデアでヒーローになる」をテーマに、スマホを活用したマーケティング企画・アプリ開発の部門がある。

主催：

名古屋工業大学大学院 岩田彰研究室

名古屋大学大学院 安田研究室

愛知県立大学 小栗研究室

株式会社 NTTドコモ 東海支社

公式サイト：

<http://www.tokai.nttdocomo.co.jp/ncf/pc/award/>

ネイティブアプリ開発部門

「世の中をちょっと便利に、スマートにするスマホアプリ」をテーマに AndroidOS で動作するアプリケーションを開発する部門である。

グランプリ: Hello Country —APPU!!: 森田賢徳, 角谷昭仁, 金森隼人—

スイング動作で飛行機を飛ばし世界に飛び立ち,その国のあいさつを楽しみながら発話練習をすることのできるアプリです.



Hello Country の画面例

準グランプリ： どこでもクローZ –AJADEC: 安達勇介, 額田蓮, 辻村拓也–

タンスの中の服をアプリで管理できます。買った服をトリミングして管理したり、画面上で服を重ねて組み合わせてみたり…。いつでもどこでも毎日のコーディネートがスマートに!!!



どこでもクローZの画面例

入賞： しあわせまちあわせアプリ –磯村淳–

「待ち合わせの時間を幸せに…」を目的に、いくつかの質問に答えて表示された格言を“幸せ待ち合わせ加盟店”で答えるとそのお店独特のサービスを受けられるアプリです。



しあわせまちあわせアプリの画面例

Web アプリ開発部門

「名古屋港水族館をもっと楽しむためのスマホコンテンツ」をテーマにHTML5を使ったWebアプリケーション

を開発する部門である。

優秀賞：お絵かきアクアリウム —ほとらボ:石川雄基, 近藤里帆—

名古屋港水族館で見た魚を水槽に自分でお絵かきするアプリです。自分の水槽を作ったり、みんなと絵を共有してお絵かき水族館を作ることができます。また、Twitterと連動することで名前を表示することもできます。



お絵かきアクアリウムの画面例

入賞：水族館探検 名古屋港水族館生き物探し —西野咲子—

画面上の水槽から魚が隠れていると思うところをクリックすると、魚の影絵が表示されます。その影絵を見てその魚の名前を当てたり、ヒントを押すと名古屋港水族館のどこにいるか表示されます。



水族館探検 名古屋港水族館生き物探しの画面例

瀬戸商工会議所パソコン講習会実施結果

(瀬戸商工会議所との共催)

1. 開催日時：平成 26 年 3 月 4 日（火）～10 日（月）18:30～20:30
2. 会 場：情報科学部棟コンピュータ演習室等
3. 参 加 者：瀬戸市内の小規模事業者 26 名
4. 目 的：小規模事業者のレベルアップを図るため、パソコン講習会を実施
5. 講師及び内容

データ活用コース 20 名		
3 月 4 日	パソコンをビジネスに活かす	奥田 隆史 教授
3 月 5 日	写真の加工と POP 作成	河中 治樹 講師
3 月 6 日	パワーポイントによる PR スライドの作成	入部 百合絵 助教
3 月 7 日	ムービーメーカーによるビデオクリップ作成	神谷 幸宏 准教授
3 月 10 日	ホームページ作成	太田 淳 准教授

スマホ・タブレットコース 6 名		
3 月 4 日	スマホ・タブレットを使ってみる	作村 諭一 准教授
3 月 5 日	スマホ・タブレットで遊んでみる	作村 諭一 准教授
3 月 6 日	スマホ・タブレットを活用する	小林 邦和 准教授
3 月 7 日	スマホ・タブレットのためのHP作成 1	伊藤 正英 助教
3 月 10 日	スマホ・タブレットのためのHP作成 2	大久保 弘崇 講師

6. 会場の様子

【開講式】



【講習風景】



○地域連携センター ホームページ

ホームページアドレス <http://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei>

地域連携センターの概要や活動報告、これから開催する講演会、講座等のお知らせを掲載しています。

また、研究・地域連携の概要、各学部の特徴や研究者の紹介などを収めた地域連携センター発行の冊子「愛知県立大学の特色と研究概要」も閲覧することができます。

【地域連携センターHP トップ】

愛知県立大学地域連携センター
Aichi Prefectural University Regional Liason Center

▶愛知県立大学ホームページ ▶HOME ▶サイトマップ ▶お問い合わせ

地域と共に築く パートナースHIP

大学の地域連携活動の総合窓口

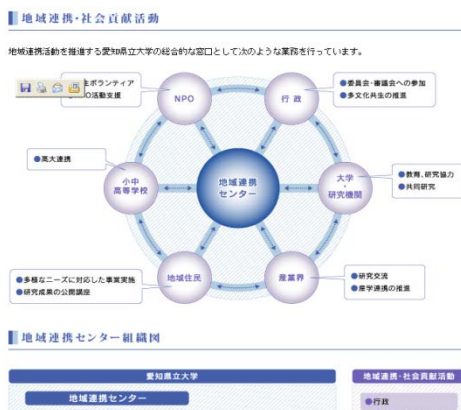
愛知県立大学地域連携センターは、行政、産業界、研究機関、他大学、小・中・高等学校、NPOなどの各種団体、地域住民との連携活動を円滑かつ、積極的に推進する総合的な窓口です。地域の多様なニーズに対応するため、教育研究の成果を社会に還元するとともに、ボランティアや各種連携行事などに学生が積極的に参加できるようコーディネートや支援を行います。さまざまな地域連携活動を通じて、愛知県立大学が「地域共同の財産」となるように努めます。

お知らせ

新規情報①
■フォーラム「NEXT30産学フォーラム」が開催されます。参加者募集

次の30年を担う若手のネットワーク作りを目的とした大学・企業の異分野、異業種交流会を開催します。新進気鋭の若手の先生による講演、参加者からの様々な話題提供、ディスカッション、懇談を通じて相互理解を深め、新たな発想、発案の機会を開催します。事前申し込み必要。
問い合わせ先事務局：中部経済連合会 産業振興部。

地域連携センター概要



講演会、講座の結果報告

愛知県立大学地域連携センター
Aichi Prefectural University Regional Liason Center

▶愛知県立大学ホームページ ▶HOME ▶サイトマップ ▶お問い合わせ

公開講座・学術講演会

公開講座・学術講演会開催のご案内

地域に開かれた大学として、地域の皆様向けに愛知県立大学の最新の研究成果を公開しています。詳しい内容をお知りになりたい方は、ご希望の講座の「プログラム詳細」をクリックしてください。

平成25年度 学術講演会

「『ヨーロッパと日本の経歴から考える多文化共生』」

【終了】

日時	2013年10月25日(金) 14:00～18:00
会場	愛知県立大学学術会館
講師	平尾 隆夫 (愛知県立大学名誉教授)
講師	平尾 隆夫 (愛知県立大学名誉教授) 14:00～18:00
講師	愛知県立大学 高橋 孝一 (教授)

平成25年度 公開講座

平成26年3月発行

編集・発行 愛知県立大学地域連携センター

愛知県長久手市茨ヶ廻間1522-3

電話:0561-76-8843

<http://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei>